

風土記の丘の花だより 1

6月ごろに見られる植物

トウカンゾウがきれいです

旧柳川家と大池の間の道沿いに、だいたい色のきれいな花が、いま見頃です。トウカンゾウの「トウ」は「橙・だいたい」のことです。

ハルジオンもまだ咲いていますが、ヒメジョオンが満開です。

名前も姿もよく似た両者ですが、今ならまだ見比べることができます。



日本の地によく
馴染んでいま
すが、どちらも
外来植物です。

左がハルジオン、右がヒメジョオンです。

オカトラノオがもうすぐ咲きます。アジサイも咲き出しました。万葉植物園のヘラオモダカも花茎がのびてきました。

ヤブムラサキに続いてムラサキシキブの花が咲いています。

ギボウシの仲間も花茎をのばしています。

谷山家南側のソクシンラン、そろそろ見納めです。

風土記の丘の花だより 2

6月中ごろに見られる植物

トウカンゾウは、まだきれいに咲いています。

オカトラノオが咲きました。写真のように白い花がたくさん集まって、美



しい曲線を描いて咲きます。谷村家住宅の南斜面や、万葉植物園などでご覧ください。今が最高の見頃です。



ヤブムラサキの花は終わりましたが、紫色のムラサキシキブの花が咲いています。

足元の小さな花も見てやってください。

黄色 コモチマンネングサ ハハコグサ コナスビ オニタビラコ

白 ドクダミ 青 ツユクサ ピンク ムラサキカタバミ

ちょっと地味ですが ジャノヒゲやヤブコウジにも花が咲きました。

資料館東の坂を上って、アジサイが見えてくるころ、左上を見上げると

キササゲの花が咲いています。垂れ下がっているのは去年の実

おまけ 大きなアゲハチョウの見分けにチャレンジ

白い紋が目立つのは モンキアゲハ 後ろ羽にしっぽがないのは ナガサキアゲハ

後ろ羽の裏の赤い紋が目立つのは クロアゲハ 青緑に輝くのは カラスアゲハ

風土記の丘の花だより 3

今、そしてこれから見られる植物(6月15日)

アメリカテイゴが真っ赤に咲いています。南アメリカ原産の植物で、江戸時代に日本に入って来たマメ科の植物です。(別名・カイコウズ)



アカメガシワの雄花(下の写真左)に続いて、雌花(同右)も咲いています。葉は大きく先端の葉は赤っぽく目立ちますが、花は白っぽくてとても小さくて地味です。でも、固まって穂になって



咲くので、遠くからでも目に付きます。万葉集ではひさぎと歌われています

ぬばたまの夜の更けゆけば久木生ふる 清き川原に千鳥しば鳴く

旧柳川家の北側の通路沿いのユウスゲがまもなく黄色い花を咲かせます。旧谷山家の庭のアガパンサスのつぼみがほころび始めました。

同じく、カツラギグミの赤い実がなりました。

中央階段の右側のミヤギノハギの花が咲き始めました。別名「ナツハギ」と言われるくらいで早く咲きます。

その小さな橋を渡った右にナツメの木、よく見ると小さな花がさいてい



ます。遠慮無く入ってご覧ください。散歩道の足元にはジャノヒゲの白い花がさいています。いたる所でよく目に付きます。ツククサの青い花がきれいです。雄しべの黄色とのコントラストが絶妙です。万葉集ではつきくさ。

月草に衣は摺らむ朝露に ぬれたの後はうつろひぬとも

風土記の丘の花だより 4

今、そしてこれから見られる植物(6月26日)

資料館南側の斜面の芝生にネジバナが咲いています。ネジバナは「なになにラン」という名前ではありませんが、ラン科の植物です。ラン科独特の形をしたたくさんの小さな花が螺旋状に咲きます。株ごとに色がわずかに違って、濃いピンク色から、ほぼ白に近いものまでさまざまです。また、ねじり方も右巻き、左巻き、時にはねじれずにまっすぐ咲くものもあります。じっくり観察してください。



旧柳川家住宅の北側通路沿いにユウスゲが咲き出しました。前まで咲いていたトウカンゾウの濃い黄色ではなく、薄い黄色で、花も少し小さめです。花は夕方に咲き、朝にはしぼんでしまうので、夕方

の散歩を楽しみながら観賞してください。



旧谷山家住宅の庭にアガパンサスの花が満開です。大きなアゲハチョウの仲間が吸蜜におとずれます。



万葉植物園でキキョウが美しく咲いています。三株ほどありますが、左手前の株が今見頃です。もうすぐ奥の株も開花するでしょう。右の株はもう

少し時間がかかりそうです。

ジャノヒゲの白い花はまだ観賞出来ます。アメリカデイゴも真っ赤です。アジサイも見頃。ヒメジョオンの群生が修復古墳の丘で見られます。道から見下ろすときれいです。

風土記の丘の花だより 5

今、そしてこれから見られる植物(7月3日)

オレンジ色の花が3つ

一つ目は、**ヒメヒオウギスイセン**

長い花茎を伸ばし、その先にジグザクに4センチほどのオレンジ色の花をたくさん咲かせます。資料館東の坂道沿いや、そのほかいろいろな所で咲いています。



2つ目は、**ヤブカンゾウ**

坂道を上ると、左側のアジサイにそってたくさん咲いています。花の中にも花びらがある八重咲きです。昔は「忘れ草」と言いました。こんな歌があります。



忘れ草 垣もしみみに 植えたれど 醜
の醜草(しこのしこくさ) なお恋ひにけり

「あなたを忘れようとして、忘れ草を垣ねいっぱい植えたけれど、何とつまらない草なこと、余計に恋しくなったじゃないのよお!!」というぐらいの意味でしょうか。万葉植物園でも咲き始めました。

三つめは、**ノウゼンカズラ**

坂道のヤブカンゾウに気を取られて見過ごしがちですが、上をみあげれば高いところに咲いています。つる植物ですから高いところまで巻きあがっています。

ピンク色の花が足元に咲いています。

サフランモドキと**ムラサキカタバミ**



梅雨どきは、キノコもたくさん出ます。カタツムリもよく見かけます。傘をさしての散歩も楽しいものです。足元、滑りませんように。

風土記の丘の花だより 6

今、そしてこれから見られる植物(7月14日)

梅雨の時期は、風土記の丘では花の少ない季節です。

旧谷山家住宅の庭のアガパンサスはまだまだきれいです。大きなモンキアゲハが蜜を吸いに訪れます。

アジサイはそろそろ見納めでしょうか。ヒメヒオウギスイセン、ヤブカンゾウはまだまだきれいにさいています。

ヒオウギが旧小早川家住宅の庭で咲き始めました。

万葉集にはこんな歌があります。

居明かして君をば待たむぬばたまの
吾が黒髪に霜はふるとも

好きな人をひたすら待つ気持ちがよくあらわれていますね。この歌に出てくる「ぬばたま」はヒオウギのことです。

うっとうしい雨の季節ですが、花の他にも楽しいものがあります。キノコです。キノコの命は短いので朝毎に違うキノコが見られます。こんなキノコもあります。

資料館東の坂を上ると、トイ

レの手前の右側の斜面に赤と白の細長いキノコが群生しています。赤い方がベニナギナタタケ、白い方がシロソウメンタケです。キノコはかなりの専門家でなければ、種類を同定することはできません。「似ているから」「まあ、大丈夫だろう」などという気持ちで絶対に食べないでください。まだまだいろいろなキノコが生えています。



風土記の丘の花だより 7

今、そしてこれから見られる植物(7月20日)

いつまでこのうっとうしい天気が続くのでしょうか？
梅雨明けが待ち遠しいですね。蒸し暑い毎日ですが、ユリの花を愛でて少しはさわやかな気分になってください。

オレンジ色で黒っぽい斑点があるのは**オニユリ**です。花びらが大きく反り返っています。また、茎と葉の付けの間にアズキのような「むかご」がついているのが特徴です



白くて大きくて、ほんのりと黄色い筋が入るのが**ヤマユリ**です。辺りに甘い香りが漂っています。



ピンク色で紫色の斑点が入るのが**カノコユリ**です。カノコとは「鹿の子」のことで、子鹿の模様のような斑点を名前にしています。どれも万葉植物園に咲いています。



キキョウランを見過ごしていませんか？

キキョウランは絶滅危惧種に指定されている希少な植物です。旧小早川家の南側、一段あがった所にあります。でも坂の途中なので、気づかずに通り過ぎる方がほとんどです。水色の花がうつむいて咲いて



います。(写真は撮影のため上を向けました)きれいな青い実もたくさんなっています。是非ご覧ください。

風土記の丘の花だより番外

散歩の途中で一休み(7月31日)

お散歩は楽しいですね。お友達と、お一人で、また賑やかにグループで。猛暑のこの時期、花はあまりさいいていません。それで今回はちょっと花をお休みして、夏の風物詩「セミの抜け殻」を探してみましよう。そして、



それがなにゼミのものを観察しましょう。

上の段の大きくて比較的颜色が薄いのはクマゼミです。成虫は体が黒く、羽は透明で、大きな声で「シャンシャンシャンシャン・・・」と大合唱します。



中の段の少し細めで、比較的颜色が濃く、少しつやのあるのはアブラゼミです。成虫は体も羽も茶色で「ジワジワジワジワ・・・」と暑苦しく鳴きます。



下の段の小さくて体が泥まみれのものはニイニイゼミです。成虫は木の幹とそっくりの色合いで後ろ羽が黒いです。

セミは何年もの間、土の中で幼虫期間を過ごします。そして夏の夕方、地上に出て、壁や木の枝などに

つかまって羽化します。夜の間には羽をのびし、朝日が昇り、体温が上がったら羽を広げて飛び立ちます。

風土記の丘ではそろそろツクツクボウシやミンミンゼミも鳴き始めることでしょう。

真夏は草花はあまり元気がありません。すこし涼しくなったらまた秋の花が咲き始めることでしょう。

くれぐれも熱中症に気をつけながら、真夏の散歩を楽しんでください。耳にたこができていると思いますが、水分補給をこまめに、無理をせず、が大事です。

風土記の丘の花だより 8

今、そしてこれから見られる植物(8月7日)

梅雨があけて猛暑が続きます。この季節に咲く花はとても「しんどそう」に見えます。せっかくがんばって花を咲かせてくれているのですから、しっかり観賞してやりましょう。

旧谷山家住宅の南側の山に、**オトギリソウ**の黄色い花が咲いています。それほど大きな花ではありませんが、とてもきれいな黄色です。その辺り一帯には**アキノタムラソウ**のうす紫色の花もきれいに咲いています。



園内各所の少し湿った地面には這い広がるように**ウルクサ**が生え、紫色の小さな花がいっぱい咲いています。気に留めなければ見過ごしてしまう花です。

竪穴住居の東側にはたくさん生えていますよ。

お豆2種類 **タンキリマメ**と**トキリマメ**



やぶに絡みつくように生えるつる草なんか、普段立ち止まって眺めることもありませんが、じっくり見てみると面白いですよ。この2つのマメ、本当

によく似ています。葉をよく見て、最も幅の広い部分が、葉の真ん中より先にあるのが左の写真のタンキリマメ、手前にあるのが右の写真のトキリマメです。どちらも園内各所の道沿いで見られます。

P S, 万葉植物園などで**タカサゴユリ**がきれいな白い花を咲かせています。

風土記の丘の花だより 9

今、そしてこれから見られる植物(8月18日)

立秋も過ぎ、暦の上ではもう秋ですが、まだまだ猛暑が続いています。そんな暑さの中、セミだけは相変わらず元気です。もうツクツクボウシもミンミンゼミも鳴き出しました。

ピークは過ぎましたが、まだたくさんの右の写真のような白いユリが咲いています。名前は**タカサゴユリ**です。もう花が終わって細長い実になっているものも目立ちます。

同じく白い花ではキンポウゲ科の**センニンソウ**も咲き始めました。木やフェンスなどに絡みつくる植物です。下の左の写真は安藤塚で撮ったものですが、あちらこちらで見られます。



花はとても小さいですがマメ科の**ヌスビトハギ**も淡いピンク色の花を咲かせ、右下の写真のようにすでに実になっているものもあります。先の曲がったとげで衣服などにくっついて分布を広げます。



左の写真は珍しいキク科の花、おもしろい名前の**オケラ**のつぼみです。大きく膨らみ、もうすぐ咲きそうです。この植物は絶滅危惧種です。前山A地区などにも自生が見られますが、万葉植物園に植栽しています。刺が多いので、注意して観察してください。

